

## 令和7年度 湖南省地域公共交通会議 議事要旨

日 時	令和8年2月9日（月）15:00～16:43
場 所	湖南省役所東庁舎 3階 大会議室

### 1. あいさつ

事務局：本日は公私ともにお忙しい中、また、お足元の悪い中、ご出席賜り、感謝する。

委員 27名中 18名の出席があり、過半数を超えていることから、会議は成立している。

会長：運転手不足が深刻であるため、全国的に公共交通の維持が課題となっている。

どの路線をコミュニティバスとして維持するか、どの路線を他の移動手段に切り替えていくべきか議論することが重要である。

### 2. 議事

#### (1)協議事項

##### 第1号議案 令和7年度収支補正予算（案）について

事務局：資料1により説明。

会長：質問、意見はあるか。地域内フィーダー系統に関しては本会議にて協議を調える必要がある。議案のとおり承認してよいか。異議なければ挙手を願う。

一同：挙手全員

会長：本議案は、承認とする。

##### 第2号議案 令和8年4月1日コミュニティバス路線・時刻改正について

事務局：資料2により説明。

会長：質問、意見はあるか。

委員：ダイヤを調整いただき感謝する。今後、JRのダイヤ改正に合わせてダイヤの微調整が必要になると思う。朝の時間に、石部駅北口から京都・大阪方面への電車に乗る場合は、跨線橋を渡る必要があるため、接続時間に余裕があると良い。

JRのダイヤ改正にあわせたバス時刻の微調整の際はすぐに対応することができるのか。書面決議が必要となるのか。

事務局：JRのダイヤ改正によりバス時刻を変更する必要がある場合は、事務局で調整のうえ、会長への確認を踏まえて変更する。なお、提示した石部循環線ダイヤでは、接続時間に余裕を持って設定している。

会長：石部駅北口発着は不便かと思うが、駅南側の工事が終わった後は以前の運行に戻るのか。

事務局：石部駅南側の工事は、約2年間かかると聞いている。工事終了の見通しが分かり次第、検討をする。

会長：乗換の際に急ぐことで事故が起こらないように、学校などへ周知をいただきたい。

委員：石部駅バス停は、石部駅北口、石部駅南口という表記にしていきたい。

菩提寺線・石部駅ルートは石部駅北口発着のほうがいいのではないかと。

事務局：表記は石部駅北口とさせていただく。菩提寺線・石部駅ルートは工事終了後も北口発着とする予定である。

会長：可能であれば、石部駅南側の工事が終わる2年後を目途に、石部駅バス停は石部駅北口と石部駅南口というように表記をいただきたい。菩提寺から石部駅の南側へ行く際は踏切を渡る必要があるが、需要が少ないようであれば、石部駅北口発着で良いと思う。

議案のとおり承認してよいか。異議なければ挙手を願う。

一 同：挙手全員

会 長：本議案は、承認とする。

### **第3号議案 路線バス「草津伊勢落線」バスルートの変更について**

事務局：資料3により説明。

会 長：質問、意見はあるか。

委 員：説明では、「石部口以降のバス停に変更はありません」とのこと。

ルートを詳しく教えていただきたい。

事務局：石部駅北口から石部口交差点へ行き、県道草津伊賀線を西進するルートになる。

伊勢落からは現在と同じルートである。

委 員：県道草津伊賀線との交差点の名称は、石部口ではなく石部駅口である。

事務局：修正する。

委 員：名神高速道路と国道1号との間に停留所があったと思う。

停留所の廃止には地元住民の合意が必要かと思うが、石部駅から伊勢落までの間にバス停がないか確認いただきたい。

委 員：石部駅から伊勢落までの間にはバス停はない。

過去にあったバス停を復活させる予定はない。

委 員：石部駅から伊勢落までの間に昔はバス停があった。現在は、石部駅南口から伊勢落までバス停がないとのことか。

委 員：そのとおりである。

委 員：めぐるくんの路線図を活用いただきたい。草津伊勢落線の路線図や時刻表をめぐるくんの路線図に含めたらどうか。

事務局：提案に感謝する。

会 長：情報は多いほうが利用者にとってはありがたい。路線図は変更できるか。

事務局：JRのダイヤ判明後に発注する予定、変更は可能である。

会 長：他に質問、意見はあるか。議案のとおり承認してよいか。異議なければ挙手を願う。

一 同：挙手全員

会 長：本議案は、承認とする。

## **(2)その他**

### **報告1 コミュニティバス小学生以下運賃夏休み無料キャンペーンの結果について**

事務局：資料4により説明。

会 長：質問、意見はあるか。

部会長：普段は利用が少ない三雲学区の利用が一番多くなった理由を教えていただきたい。

事務局：理由は不明だが、周知がうまくいったのではないかと考える。

部会長：実施後の効果検証を深めていただきたい。日常利用につながるモビリティ・マネジメントを検討いただきたい。

会 長：学校側の周知方法が要因かと思う。周知はどのように行ったか。

事務局：無料キャンペーンの案内を校長会にて共有した。その後は、学校から子どもへ案内を配布した。三雲学区の周知方法を確認のうえ、他の学区でも参考にしていきたい。

会 長：利用が多かった三雲学区の学校から周知方法を確認するとういことかと思う。

人員実績からは、保護者も一緒にバスに乗っていることが分かる。朝の片道だけでもバスを利用することで送迎が不要となり、朝の時間帯の利活用につながる。

分析を深めると、モビリティ・マネジメントにつながる資料となる。  
無料キャンペーンにより草津線の利用がどれだけ増えたか知りたい。  
JRの運賃割引施策を行うことで、今後、高校生になった時に草津線の利用につながる。  
子どもが減少すると、公共交通利用が激減する懸念がある。

## **報告2 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について**

事務局：資料5により説明。

会長：質問、意見はあるか。

委員：紙の時刻表は高齢者に好評である。目標が達成されなかった際にはペナルティはないのか。  
ペナルティがないのであれば、どのようにモチベーションを保つのか。

事務局：地域公共交通計画は、5年計画である5年間での目標達成に対する評価をする。

1年目に達成できなくてもペナルティはない。5年間で達成するよう目指す。

委員：ボランティアとの連携と書かれているが、組織化されたボランティアは高齢化しており、若い人は入りづらい状況である。このことを考慮いただきたい。

委員：地域公共交通計画は目標を達成できなくてもペナルティはないが、現実と理想の乖離が大きくないように作ることが望ましい。地域間幹線系統は、毎年度収支率1%向上が必要である。物価高の影響もあるため、1%の向上が達成できなくても現段階では補助金の打ち切りはない。燃料費は暫定税率廃止により値下がりがりしたので、今後は打ち切りになる可能性がある。

会長：人件費高騰を踏まえて検討いただきたい。行政負担額に関して、コミュニティバス通学定期券補助事業が約80万円である。夏休みバス無料乗車券体験キャンペーンは保護者の利用増加により増収となっている。一方、高齢者無料乗車券交付事業は17,000枚以上無料券を配布しているため負担額が大きくなっている。  
どの施策に多く投資して、市内の地域公共交通の利用やJRの利用につなげていけるか検討するべきである。モビリティ・マネジメントをしっかりとやっていければ良い。

## **報告3 湖南省地域公共交通計画の進捗管理について**

事務局：資料6により説明。

会長：質問、意見はあるか。無いようなので、次の議題に移る。

### **○その他**

部会長：コミュニティバスの収支率目標が達成できていないことを市民に周知して、利用を促すようにしていただきたい。夏休みの無料キャンペーンは、学区ごとに競わせたらいいのではないか。利用が最も伸びた学区には、春休みも無料で使えるようにするなど、楽しく使うような仕掛けをつくるといいと思う。

会長：湖南省の特徴としては、送迎が多いことが挙げられる。

地域公共交通は、通勤通学での利用が多い。地域公共交通への転換により送迎を減らして、渋滞を減らしていければいい。

会長：委員より発言はあるか。

委員：12月29日に下田線・三雲駅ルートに乗った際は、積み残しになりそうな混雑であった。20時台の終バスで帰宅した際も混雑していた。例年も年末は混雑しているのか。年末は、増便のための乗務員の確保は難しいか。小学生の学習のためにバスの増発をしていたが、最近はなくなったのか。

委員：三雲駅の利用者が多く積み残しが発生しそうだったことは把握していなかった。  
増発は難しい状況であったと思われる。今年末も同じことが起こると予想されるなら、増発の対応も考えられる。  
小学生の学習に合わせた増発は以前行っていたが、運転手不足により難しい。

委員：承知した。利用状況に関して、運転手との会話を密にしていきたい。

### **3. 閉会あいさつ**

会長：審議に感謝する。

副会長：審議に感謝する。

様々な課題がある中、様々な立場で公共交通に尽力いただき感謝する。

全国的に地域の移動手段確保が課題となっている。湖南省においても、少子高齢化などにより維持が難しくなっている。地域公共交通は、日常移動を支える重要な社会基盤であり、自動車が使えない人の生命線である。

地域公共交通の縮小は、地域の活力や住み続けられるまちづくりにも大きな影響を及ぼす。湖南省では、守るべき地域公共交通と地域に合った新しい移動手段の両立が求められている。既存の地域公共交通だけでなく、地域主体の移動支援、多様な主体との連携など、持続可能な交通のあり方を市民とともに考え、実行することが重要と考える。

誰もが安心して生き続けられるまちを次世代へ引き継げるよう、地域公共交通の再構築に取り組みたい。

事務局：委員の任期は、今年度末までであるが、次年度以降も委員の継続をお願いする。

本日の会議を終了する。